



大変すばらしい発表でした(連合音楽会)

11月7日(金)に、松山市民会館で松山市小中学校連合音楽会が行われました。潮見小学校からは6年生が出場し、「見上げてごらん夜の星を」の合唱、「明日があるさ」の合奏を披露しました。

合唱では、心を一つにしたハーモニーがホールに響き、歌詞のイメージ通り、会場を温かく包み込みました。合奏では、各自が役割をしっかりと果たし、息の合った演奏で、明るくテンポのある曲の魅力を最大限に引き出しました。日々の練習の成果が十分に表れていて、友達と協力しながら音楽をつくり上げる姿に、大きな成長を感じました。

このような機会は、プレッシャーもあったと思いますが、一人一人が頑張ったからこそ成し遂げられるものでもあります。大勢の観客の中で市民会館の舞台に立つことは、貴重な経験です。緊張の中でも堂々とした態度で臨み、最後まで集中を切らさずにやり遂げた6年生の姿は、大変立派でした。この経験を今後の自信につなげていくことを期待しています。



地域とのつながいを生かして6

10月31日(金)に3年生が行った潮見ふるさと音頭の体験学習についての感想をお伝えします。

【潮見ふるさと音頭を体験した後の感想】

私は、今日、潮見ふるさと音頭を体験しました。はじめに潮見ふるさと音頭の歌詞について話を聞きました。次に、みんなで大きな円になって振り付けを教えてもらいながら、少しずつ踊りました。はじめは少ししか分からなかったけれど、振り付けを覚えて踊るとだんだん分かってきました。みんなで円になって踊ると楽しかったです。最後に質問をしました。私が「どうして潮見ふるさと音頭を広めようと思ったのですか。」と聞くと、「それは潮見ふるさと音頭をいろいろな人に知ってほしいからだ。」と教えてくれました。潮見ふるさと音頭のいろいろなことが分かってよかったです。

僕は、10月31日に潮見ふるさと音頭を教えてもらいました。最初は、潮見ふるさと音頭を踊ることができませんでした。潮見ふるさと音頭に意味があることが分かり、踊りが踊れるようになったらだんだんと楽しくなりました。潮見ふるさと音頭は、夏祭りに踊ると言っていました。潮見ふるさと音頭は、何回も作り直されています。振り付けが五つありました。五番目が一番難しかったです。手や足は、右から動かすと言っていました。また練習をしてもっとうまく踊れるようになりたいです。



歌詞に含まれている地元の姿やそれを表現した振り付けを理解することが、地域を愛することにつながりました。子どもたちの感想にもありますが、何より「楽しく」踊ることができるのが一番だと思います。